

CASE PRESENTATION

Dentist

Technician

Hygienist

改良されたハイブリッドシリコーン 印象材「フュージョンII」の特徴と 臨床応用



大阪府開業 南歯科医院
歯科医師
南 昌宏

はじめに

審美補綴を成功させるポイントは、顔貌とのかかわりからはじまり、歯冠の形態の設計、色調の設定、そして修復物と歯肉との調和と繋がってくる。このバランスを決めるにはいかにそれらの関係を適切に把握するかが重要となり、その意味でも印象採得には細心の注意を図るようにしている。

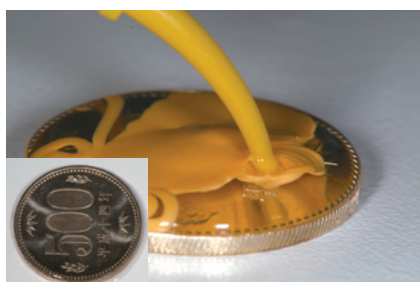
ハイブリッドシリコーンという新しいカテゴリーの印象材「フュージョン」が発売され、早くも4年が経過した。私は、最初にこの製品を臨床で使った際に、今までの親水性シリコーン印象材とは、また違った印象性能を有していると感じた。とりわけ浸出液の多い部位の印象でもよく採得できた。しか

し、すべてが満足というわけではなかったので、臨床ケースに応じ、今までの印象材と使分けの形で臨床応用してきた。ここでいう不満足な点は、1つは流動性のバージョンが少ないことである。ウォッシュタイプよりも少し流れが良いものや、モノフェイスタイプよりも少し硬めのものがあると使いやすかった。もう1つは細部がちぎれることがあったので、これは改良してもらいたいと思い、ジーシー社へも改良の要望を伝えていた。

このような形で付き合ってきた「フュージョン」だが、今年の4月に「フュージョンII」として大幅に改良され、発売された。私の要

望を加味してくれたのか、多くの点で不満は解消されていた。フローは5種類に増え、特に追加されたエクストラウォッシュは流動性が良い割にはマージン部でも留まり、エアを掛けると歯面から剥がれることなく容易に歯肉溝に流れ込んでくれる。また、細部においてもちぎれにくくなったことや硬化がシャープになったことも使いやすくなった点である。最近では、良好な親水性を生かし、クラウンブリッジの印象だけでなく、義歯への臨床応用も行なっている。

今回は、私が気にしている「フュージョンII」の親水性という特徴やその有用性を、臨床ケースを通して紹介する。



1-1 フュージョンIIの親水性がいかに良好であるかが簡単な試験で確認できる。まず500円硬貨の表面に水を張り、水を張った部分の上から静かにエクストラウォッシュを流し込む。



1-2 無圧のまま硬化させた状態。流動性がもっとも高いタイプであるが垂れぐあいは中程度であり、ある程度の保形性を有していることがわかる。



1-3 硬化後の印象面。数字の中の囲まれた部分の細かい線のところまで印象材が流れ込んで精密に再現されていることが確認できる。優れた親水性が発揮されている。

	ウォッシュマテリアル		トレーマテリアル		
	エクストラウォッシュ	ウォッシュ	モノフェイス	ヘビーボディ	パテ
無圧時のフロー					
加圧時のフロー					

1-4 フュージョンIIのフローは5種類とバリエーションが充実した。

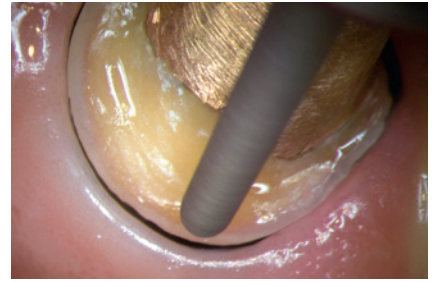
●クラウンブリッジ臨床例 1



2-1 術前右上中切歯の補綴物に対する審美障害を主訴として来院。歯軸も右に流れている。



2-2 マイクロスコープ「OPMI PROergo」を用いて歯肉を傷つけないように注意し、正確に支台歯形成を行う。インプラント、歯周外科の手術やエンド治療などでは極めて効果的である。



2-3 マイクロスコープによる拡大視野。拡大視野下の治療では、裸眼では不可能な高いレベルの治療を実現できる。



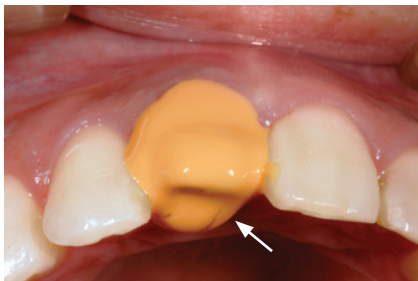
2-4 オールセラミックスクラウンの支台歯形成後。印象を成功させるための要件としての良好なティッシュマネージメント、適切な支台歯形成が達成されている。



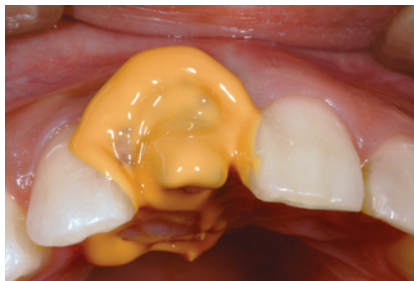
2-5 印象準備として2重圧排を行う。まず細めの圧排糸を歯肉溝に挿入する。



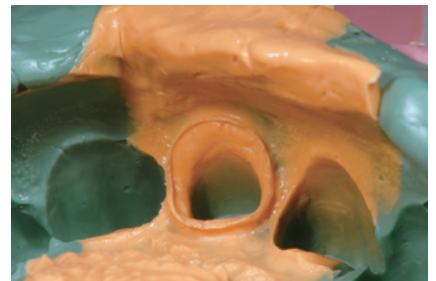
2-6 次に、太めの縫糸糸を挿入する。咬合面側から見て圧排糸が一部見えている程度が適切な歯肉圧排である。



2-7 約5分後、2次圧排糸のみをゆっくりと除去し、直ちにエクストラウォッシュを流し込んでゆく。流動性が高いたいタイプにもかかわらず、あまり垂れていないことに注目したい。



2-8 軽いエアブローで印象材を歯肉溝内に流し込んでゆく。印象材は歯面とのなじみがよく、支台歯表面からはがれることもなくエアブローで適切に流れをコントロールすることができる。



2-9 ヘビーボディタイプとエクストラウォッシュタイプの連合印象を行なった。口腔内に3分保持し硬化後撤去したところ、タイトなタイプの歯肉であったが印象材のちぎれもなくフィニッシュライン下部まで印象採得されている。

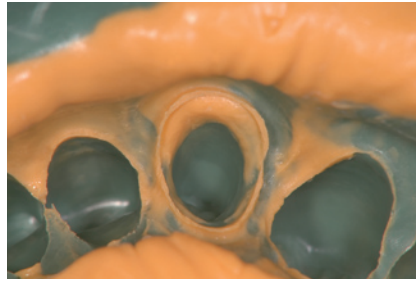


2-10 術後。

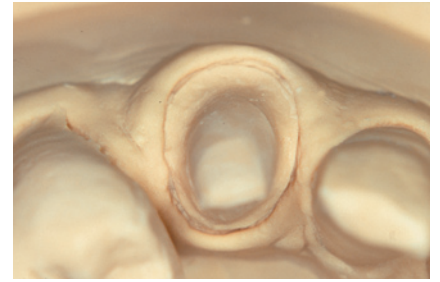
●クラウンブリッジ臨床例 2



3-1 支台歯形成後、歯肉圧排時の状態。薄いタイトな歯肉であることがわかる。



3-2 印象材のちぎれもなくフィニッシュライン下部まで印象採得されている。



3-3 印象模型材としてニューフジロックIMPを用いて模型を作製。印象材との相性がよく精度の高い模型が作製できる。



3-4 コーピングを口腔内に試適しピックアップ印象を行いポーセレンを築成、完成。



3-5 口腔内に装着されたオールセラミックスクラウン。

●パーシャルデンチャー症例



4-1 個人トレーを作製。接着剤にはフュージョンIIアドヒーズブを用いる。



4-2 モノフェイズタイプの印象材を使用。粘膜面も鉤歯歯面も忠実に印象採得されている。「フュージョンII」は粘膜への刺激や苦味がなく快適に印象採得できる。



4-3 印象面にニューフジロックを注入し模型を作製。ワンピースキャストのフレームを作製する。



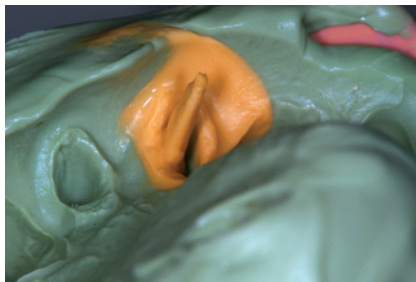
4-4 口腔内にメタルフレームを試適。マウスプレパレーションされた鉤歯に精密に適合している。



4-5 完成し装着されたキャストパーシャルデンチャー。モノフェイズタイプ印象材により精密適合が可能となった。



5-1 エクストラウォッシュの高い流動性により無理なくレジンコア用のチップの細い先端から印象材を出すことができる。



5-2 このチップを使ってポストアンドコアの印象もポスト先端まで確実に印象採得ができる。硬化した印象材は十分な強度があるため、印象補強芯を使用する必要がない。

おわりに

臨床ケースや術者の好みにより選択される器材は異なると思うが、メーカーの開発努力により性能が向上し、選択できる製品が増えることは我々臨床家にとって福音であることは間違いない。今回のフュージョンIIで

は、印象性能の向上は前述の通りだが、口腔粘膜への刺激や苦味がないという患者さんへの配慮もされている。今後は、スタッフの作業効率を考慮し自動練和器を使用する大容量タイプも開発中とのことである。

これからも、それらの器材の特徴をよく理解したうえで、適切に選択し、正確な手技により活用し、患者さんにも喜ばれる“より高い歯科医療”を実践していきたい。